

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) A revised structure for alkaloid 235C isolated from skin extracts of Mantellid (<i>Mantella</i>) frogs of Madagascar	共著	2005 年 12 月	<i>Journal of Natural Products</i> Vol.68, No.12, pp.1743~1748	マダガスカルに生息する矢毒ガエル <i>Mantella crocea</i> の皮膚抽出物よりアルカロイド 235C を約 0.3mg 単離し、各種スペクトルデータより、その化 学構造を明らかとした。 (6 頁) (N. Rabe Andriamaharavo, Marta Andriantsiferana, Paul A. Stevenson, Gavin O'Mahony, Herman J. C. Yeh, <u>Tetsuo Kaneko</u> , H. Martin Garraffo, Thomas F. Spande, John W. Daly) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出 不可能。
2 (学術論文) Antidiabetic effects of corosolic acid in KK-Ay diabetic mice	共著	2006 年 3 月	<i>Biological & Pharmaceutical Bulletin</i> Vol.29, No.3, pp.585~587	ウルサン型トリテルペンであるコロソール酸を 2 型 糖尿病モデル動物である KK-Ay マウスに単回 および 2 週間連続投与した。その結果、単回、連 続投与ともに 2mg/kg の投与量で血糖値が優位 に低下することを見出した。更に、コロソール酸 を投与した KK-Ay マウスにインスリン負荷試験を 行い、インスリン抵抗性を改善することを明らかと した。 (3 頁) (三浦俊宏、上田直哉、山田耕太郎、 福島光夫、石田寅夫、 <u>金子哲夫</u> 、松山太、 清野裕) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出 不可能。
3 (学術論文) Effect of corosolic acid on postchallenge plasma glucose levels	共著	2006 年 8 月	<i>Diabetes Research and Clinical Practice</i> Vol.73, No.2, pp.174~177	境界型糖尿病患者 31 名に二重盲検法、クロスオ ーバー比較試験によりコロソール酸及びプラセ ボを各 10mg 経口投与した。その結果、コロソ ール酸投与後 60~120 分で血糖値が低下し、特に 投与後 90 分における血糖値が優位に低下する ことを見出した。 (4 頁) (福島光夫、松山太、上田直哉、江川和泰、 竹本順一、梶本佳孝、与那覇昇、三浦俊宏、 <u>金子哲夫</u> 、西勇一、三井理瑛、藤田義人、 山田祐一郎、清野裕) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出 不可能。
4 (学術論文) Dietary corosolic acid ameliorates obesity and hepatic steatosis in KK-Ay mice.	共著	2008 年 4 月	<i>Biological & Pharmaceutical Bulletin</i> Vol. 31, No. 4, pp.651-655	血糖低下作用を有するコロソール酸を KK-Ay マ ウスに投与したところ、肥満および肝脂肪症の改 善に有効であることを見出した。これらの作用機 序のひとつとして、肝臓中の PPAR α および脂肪 細胞中の PPAR α の発現増加が関与していること を明らかとした。 (5 頁) (山田耕太郎、細川雅也、山田千積、渡辺理江、 藤本新平、藤原秀哉、國友勝、三浦俊宏、 <u>金子 哲夫</u> 、津田謹輔、清野裕、稲垣暢也) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出 不可能。